

You, Unlimited

龍谷大学大学院

国際学研究科



Graduate School of

International
Studies

2027



RYUKOKU
UNIVERSITY

国際学研究科

Graduate School of International Studies

世界には思索の種子がたくさん転がっている。

20世紀の終盤に始まったグローバル化は、21世紀になってさらに加速し、人と情報の流れは言語や国境を越えてボーダーレスに展開しています。また、このような時代を生きるためには、世界的課題やそれぞれの地域社会が抱える諸問題を明らかにする必要がありますが、そのためには複眼的にこれらの諸課題を検討した上で、多様な見解を持つ他者との対話や交流を通じて、自らの考えを深め、解決方法を提示し、関係者を説得していくことが、理論的にも実践的にも必要となります。



国際学部の学びを受けつぐ修士3専攻 博士後期2専攻

希望の研究フィールドに応じて、修士課程は、国際文化学専攻、グローバルスタディーズ専攻、言語コミュニケーション専攻の3つから、博士後期課程は、国際文化学専攻、グローバルスタディーズ専攻の2つから選択可能です。

複数指導体制による、充実した論文指導

指導教員のほかに副指導教員を配置し、さまざまな角度から研究テーマを掘り下げます。

多くの留学生との学術的交流

研究科に所属している多くの留学生との交流を通じて、知を相対化していきます。

教育理念・目的

建学の精神に基づいて、グローバル化の加速的な進展のなかで、現在の国際社会が直面している諸課題・諸現象と批判的に向き合い、多様な文化が共生する社会の実現に向けて、国際的な舞台上でリーダーシップを発揮し活躍できる高度専門職業人・実務家・研究者の養成を目的としています。

修士課程	国際文化学専攻	相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を、文化の視座から批判的に考察し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して解決方法を探求することができる人材、また得られた知見を高度専門職業人・実務家・研究者として発信できる人材を養成します。
	グローバルスタディーズ専攻	グローバル化が急速に進展する現代の国際社会が抱える諸問題を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を探求することができる人材、また得られた知見を高度専門職業人・実務家・研究者として発信できる人材を養成します。
	言語コミュニケーション専攻	グローバル化が急速に進展する社会における言語およびコミュニケーションの意義や役割に関する問題意識をもち、主体的かつ自律的に学ぶことによって卓越した専門的知識や技能を習得し、高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮して高度専門職業人・実務家・研究者として相互理解や多文化理解の推進に貢献できる人材を養成します。
博士後期課程	国際文化学専攻	相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を、文化の視座から批判的に考察し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を国際的な舞台上で提言し、多文化が共生できる社会の創造に高度専門職業人・研究者として貢献できる人材を養成します。
	グローバルスタディーズ専攻	グローバル化が急速に進展する現代の国際社会が抱える諸問題を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を国際的な舞台上で提言し、豊かな社会の創造に高度専門職業人・研究者として貢献できる人材を養成します。

研究科長のメッセージ

「われわれの今日とわれわれの昨日や一昨日とのあいだのすべての橋は、壊されてしまったのだ。」
「昨日までまだ不可能であったことが、ほとんど日に日に可能とされてゆく。」

シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』（訳：原田義人）みすず書房、1973年
19世紀末のウィーンで生まれたユダヤ系の作家シュテファン・ツヴァイクは、二度目の世界大戦の勃発を前に、自身の人生とヨーロッパにおける安定の時代の回想録を書き始めました（1942年、亡命先のブラジルで執筆を終えた後に、彼は自らの命を絶ちます）。そのなかでツヴァイクは、わずか数十年前の、「今日」とはまったく異なる『昨日の世界』を書き残そうとしました。

21世紀が始まり四半世紀を過ぎた現在にとって、20世紀末の世界でさえ、ツヴァイクの述べる「昨日の世界」であるかのように感じられます。情報技術の革新とそれによる利便性の劇的な向上、国内外の政治・社会状況の変化と言論空間の変質、新たな紛争・対立の勃発、国際秩序の転換の兆しなどは、わずか数十年のあいだに生じたものです。他方で、「昨日の世界」においても頻発していた民族間紛争や資源・領土をめぐる衝突は、形態や規模を変えながらも、いまだ解消されていません。

2019年度に創設された国際学研究科は、今日の世界におけるさまざまなイシューに対して、既存の学問領域にとどまらず、より多角的・多面的かつ複眼的に考察することを目的としています。国際関係論、文化人類学、言語学、比較文化学などを含む複数の領域を横断する研究の場を提供し、変容する国際社会が直面する諸問題に対して、地に足をつけながらも新たな視座からアプローチできる研究環境を整えています。

大学院生にとって、研究科での学修は多くの喜びとともに困難も伴うでしょう。院生と教員が共に切磋琢磨し、刺激し合いながら知を蓄積し、学問を深めていく。そのような、発展し続ける研究科でありたいと考えています。



国際学研究科長
瀧口 順也 教授

修士課程 国際文化学専攻

相互依存が一層著しく進む今の世界において、文化という視点から専門性と実践能力を身につけた人材を養成することを目的に、「日本」、「共生社会」、「言語文化」、「宗教文化」、「芸術・メディア」という5つの領域に立脚しつつ、異文化間関係にかかわる幅広い学問的方法論を身につけます。多様な国籍からなる指導教員が責任をもって手厚い指導をおこない、院生一人ひとりが修士論文の完成を目指します。これらを通じて、専攻や研究科の枠組みを超えて研究活動をおこない、国内外の開かれた学問社会との交流によって、広く研究活動をおこなうことができる次代の高度職業人や研究者となる人材を育成します。



専攻の特色

1 国際文化研究の多様な側面を理解する科目の配置

国際文化研究の多様な側面を理解し、その中で自分の方法論を確立していくために、「国際文化学」「調査方法論」を必修として配置します。

2 5領域による専門性や能力の修得

日本、共生社会、言語文化、宗教文化、芸術・メディアに関連する専門科目を配置します。これらの専門科目においては、各自の研究テーマに必要な語学能力、文献探索能力、フィールドワークの能力などを身に付けます。

3 複数の専任教員によるチーム・ティーチング

1年次から演習を配置し、指導に当たる主・副となる教員の指導を受けることで、研究遂行にあたっての基礎知識を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、修士論文を作成します。

4 フィールド調査補助などの支援体制

国際文化学専攻は、法学研究科および経済学研究科と合同で実施する「アジア・アフリカ総合研究プログラム」へも所属が可能です。プログラムへの所属により、プログラムが提供するフィールド調査費(上限20万円)によって現地調査を行うことが可能です。

《リサーチセミナー》

各大学院生が自身の研究成果を報告し、他の大学院生や担当教員からの批判やコメントを得る機会として、また、国内外の国際文化学の第一線の研究者や、本学教員による研究発表を聞き、相互に議論する機会として、1年次に「リサーチセミナー(A・B)」を開講しています。

修士課程 国際文化学専攻 カリキュラム

修了要件 30単位	1年		2年	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester
基礎科目	国際文化学	調査方法論		
	リサーチセミナーA	リサーチセミナーB		
応用科目	<日本研究領域> 日本研究A、日本研究B <共生社会研究領域> 共生社会研究A、共生社会研究B <言語文化研究領域> 言語文化研究A、言語文化研究B <宗教文化研究領域> 宗教文化研究A、宗教文化研究B <芸術・メディア研究領域> 芸術・メディア研究A、芸術・メディア研究B			
	<AAプログラム> 民際学概論、民際学理論研究、アジア経済史研究、フィールド調査研究、アフリカ社会論研究、アジアアフリカ総合研究特別演習			
演習科目	演習 I	演習 II	演習 III	演習 IV

修士論文提出

➔

公開審査

➔

修士(国際文化学)学位取得

- 秋入学者は基礎科目の履修順序が変わります。
- 年度により一部科目が不開講となる場合や開講Semesterが変更となる場合もあります。
- 応用科目からは、5領域(日本研究、共生社会研究、言語文化研究、宗教文化研究、芸術・メディア研究)から2領域を選択して重点的に履修し(計4科目: 8単位)、その他の領域からの1科目(2単位)も加えて、5科目(10単位)以上を修得する必要があります。
- アジア・アフリカ総合研究プログラムについては、10ページをご覧ください。

修士課程 グローバルスタディーズ専攻

20世紀の終盤から急速に展開するグローバル化の中で、世界はますます多様化・流動化すると同時に相互依存関係を深め、多くの重層的・複合的な諸課題に直面しています。グローバルスタディーズ専攻では、主として「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」に焦点化し、それら3領域による複合的な視点から専門的研究を展開することを通して、進取の気概をもって国際社会に貢献できるリーダーを育成します。また、授業を英語で開講し、英語での修士論文執筆を必修とするカリキュラムで、入学者を国内外から積極的に受け入れています。



専攻の特色

1 すべての科目を英語で配置

グローバルな舞台で活躍できる人材を育成するために、全ての授業を英語で受講できます。1年次科目として「Introduction」を配置し、各自の研究がどのような意義を持ち、またその遂行にはどのような方法論を選択する必要があるかを修得します。

2 3領域からなる研究分野

既存の国際学部グローバルスタディーズ学科に対応し、グローバルスタディーズを「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3領域からなる研究分野であると定義します。そのうえで、これらの領域が複合的に重なりあう部分に呼応する研究テーマをそれぞれの大学院生が設定し、それらの課題を広さと深さを併せ持つ形で探求します。

3 複数教員からの指導、英語による修士論文作成

1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導をもとに、研究遂行にあたって必要な基礎知識を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、英語で修士論文を作成します。

4 国際的な研究や活動に裏打ちされた教員による教育

国際的な舞台で研究・活動を進めている専任教員が指導を担当します。本専攻教員の内、約60%は海外の大学院で学位(修士号もしくは博士号)を取得し、またほとんどの教員が国際的な舞台で英語を使用して研究成果を公開しています。

《Research Seminar》

各大学院生が自身の研究成果を報告し、他の大学院生や担当教員からの批判やコメントを得る機会として、また、国内外の国際学の第一線の研究者や、本学教員による研究発表を聞き、相互に議論する機会として、1年次に「Research Seminar(A・B)」、2年次に「Research Seminar(C・D)」を開講しています。

修士課程 グローバルスタディーズ専攻 カリキュラム

修了要件 30単位	1年		2年	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester
基礎科目	Introduction			
	Research Seminar A	Research Seminar B	Research Seminar C	Research Seminar D
応用科目	<Globalization領域> Global History / Globalization and Area Studies / Globalization and Social Development <Ethics領域> Global Ethics / Global Inequality and Sustainability / Globalization, Conflict and Justice <Communication領域> Communication Studies / Language, Power & Identity/ Global Communicative Competence Studies			
演習科目	Thesis Seminar I	Thesis Seminar II	Thesis Seminar III	Thesis Seminar IV

英語による修士論文提出

➔

公開審査

➔

修士(グローバルスタディーズ)学位取得

- 秋入学者は基礎科目の履修順序が変わります。
- 年度により一部科目が不開講となる場合や開講セメスターが変更となる場合もあります。
- 応用科目の、Globalization、Ethics、Communicationの各領域から1科目以上を含む計8単位以上を修得する必要があります。

修士課程 言語コミュニケーション専攻

ますます顕著になりつつあるグローバル化の状況の中で、高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮して国内外の社会において活躍できる人材の育成が急務です。グローバル社会の中で求められる新たな言語教育の展開に貢献するために教員養成課程を設置し、英語教員としての高度な専門性や実践的能力だけでなく、グローバルな視点から多様な価値観を捉え直すとともに、相互に関連を深める国際情勢を複眼的な視点から総合的・大局的に分析し、問題解決に向けて高い英語力・対話をもって積極的に行動できるリーダーを育成します。



専攻の特色

1

「第二言語習得」に関わる方法論科目

1年次には「第二言語習得」に関わる質的・量的調査法に関わる基礎科目を必修として配置し、研究方法に関する基礎を修得します。

2

3領域に関わる重点科目を系統的に配置

「通訳・翻訳」、「英語教育学」、「応用言語学」の3領域に関わる重点科目を系統的に配置し、言語教育の研究に関わる理論的・実践的基盤を培います。

3

複数の専任教員によるチーム・ティーチング

1年次から演習を配置し、指導に当たる主・副となる教員の指導を受けることで、研究遂行にあたっての基礎知識を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、修士論文を作成します。

4

国際的な研究や活動に裏打ちされた教員による教育

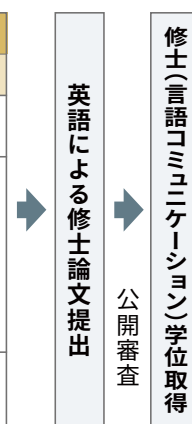
国際的な舞台で研究・活動を進めている専任教員が指導を担当する。本専攻教員の内、85%は海外で大学院の学位(修士号もしくは博士号)を取得し、またほとんどの教員が国際的な舞台で英語を使用して研究成果を公開しています。

《英語専修免許(中学校・高等学校)が取得可能》

「中学校・高等学校英語教員(専修免許)」の課程を併設。専攻内の定められた科目を修得することで取得可能です。
(※一種免許状を有している方が対象です。)

修士課程 言語コミュニケーション専攻 カリキュラム

修了要件 32単位	1年		2年	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester
基礎科目	Research Methods A	Research Methods B		
応用科目	通訳・翻訳研究A、通訳・翻訳研究B、日英通訳・翻訳研究、通訳・翻訳セミナー、Psychology and Language Learning、外国語学習方法論、言語政策論、Language Testing and Assessment、Pragmatics in Language Learning and Teaching、Second Language Teacher Education、Communication Studies、Language、Power & Identity、Global Communicative Competence Studies、Global History、Global Ethics			
演習科目	言語コミュニケーション演習Ⅰ	言語コミュニケーション演習Ⅱ	言語コミュニケーション演習Ⅲ	言語コミュニケーション演習Ⅳ



- 秋入学者は基礎科目の履修順序が変わります。
- 年度により一部科目が不開講となる場合や開講セメスターが変更となる場合もあります。

博士後期課程 国際文化学専攻

相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を、文化の視座から批判的に考察し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を国際的な舞台上で提言し、多文化が共生できる社会の創造に高度専門職業人・研究者として貢献できる人材を養成します。



カリキュラムの特徴

1

演習指導を通じて、専門的知識をさらに深めるのみならず、複合的・学際的視点を用いて、設定したテーマにアプローチできるための幅広い学術的研鑽を積み重ねます。

2

研究科内外での学会や研究会において発表を行い、内外の研究者との交流を深めるとともに、将来自立した研究者となるために必要なさまざまな能力を構築します。

3

先行研究によっても十分解明されていない論点について学術的にも貢献できるように、研究の射程ならびに研究の方法論について独自の視点をもてるようにします。

4

1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導のもとに、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、博士論文を作成します。

博士後期課程 国際文化学専攻 カリキュラム

科目区分	1年		2年		3年	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター
演習科目	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ	演習Ⅴ	演習Ⅵ

博士後期課程 グローバルスタディーズ専攻

グローバル化が急速に進展する現代の国際社会が抱える諸問題を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を国際的な舞台上で提言し、豊かな社会の創造に高度専門職業人・研究者として貢献できる人材を養成します。



カリキュラムの特徴

1

演習指導を通じて、専門的知識をさらに深めるのみならず、人文学の視座を中心にした複合的・学際的視座から、設定したテーマにアプローチできるための幅広い学術的研鑽を積み重ねます。

2

研究科内外での学会や研究会において発表を行い、内外の研究者との交流を深めるとともに、将来自立した研究者となるために必要なさまざまな能力を構築します。

3

1年次に「PhD. Research Seminar」を配置し、研究成果を効果的に発信するために必要なスキルと方法を学び、自立した研究者となるための能力を涵養します。

4

1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導のもとに、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、博士論文を作成します。

博士後期課程 グローバルスタディーズ専攻 カリキュラム

科目区分	1年		2年		3年	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター
基礎科目	PhD. Research Seminar					
演習科目	Thesis Seminar I	Thesis Seminar II	Thesis Seminar III	Thesis Seminar IV	Thesis Seminar V	Thesis Seminar VI

学位取得までのプロセス

修士号 学位取得までのプロセス（抜粋）

1年		2年	
1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester
<ul style="list-style-type: none"> ●指導教員および副指導教員の決定 ●研究題目届の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ●研究経過報告書の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ●修士論文計画書の提出 ●中間発表 	<ul style="list-style-type: none"> ●公開最終発表 ●修士論文提出 ●公開口述試験 ●公開優秀論文審査

修士号授与

※詳細は、履修要項を必ず確認してください。

博士号 学位取得までのプロセス（抜粋）

1年		2年		3年	
1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester
<ul style="list-style-type: none"> ●指導教員および副指導教員の決定 ●研究計画書の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ●研究経過報告書の提出 		<ul style="list-style-type: none"> ●研究経過報告書の提出 ●博士論文提出資格試験（4セメ以降） 	<ul style="list-style-type: none"> ●公開研究発表（関連学会等での発表） ●学会誌等への論文投稿 	<ul style="list-style-type: none"> ●博士論文提出 ●公開審査

博士号授与

※詳細は、履修要項を必ず確認してください。

修士・博士論文タイトル紹介

修士論文題目例

- 仏教的エトスである施しを活用した貧困解決の可能性の模索
—スリランカをフィールドとして—
- SNSと広告炎上から見る日本の社会と文化
—ナイキジャパン「The Future Isn't Waiting」を例に—
- MOTIVATIONS FOR STUDYING ABROAD
—The Case of Vietnamese Students in Japan—
- シルクロードの音楽文化交流研究
—漢唐時代における阮咸楽器の図像を中心に—
- ノンフィクション番組の越境と受容
—NHK「ドキュメント72時間」が若年層中国人視聴者に与える影響—
- KPOPファン活動を通じて形成される多様な関係が及ぼす影響力
—アイデンティティや日常生活を中心に—
- 殷周時代青銅器文様研究
—饕餮文と鬼神信仰を中心に—
- Responsibility and Ethics in International Relations
—Through the Russia-Ukraine Context—
- EFL Learners in Immersion Education: A Study on Adaptation and Struggle
- Exploring the Effects of Study Abroad Experiences on Preservice Teachers' Perceptions of Future Teaching
- Exploring pre-service English teachers' beliefs regarding CLT in a university-based teacher education program
- The impact of teaching practicums on Japanese pre-service teachers' self-efficacy for implementing communication-oriented English classes
- Exploring the factors determining foreign language teaching anxiety
—A Japanese elementary school context—
- Decolonizing a Pluriversal IR
—A Critical Engagement with Linear Temporality—

- The impact of teacher-student relationship and self-perceived English proficiency on students' English learning motivation
- メトロポリタン美術館所蔵《文字で構成される孔雀の図像表現》の研究
- 2000年代の少女マンガにおける男性表象について
—「オトメン」というケーススタディー—
- 『ちやお』世代のおしゃれ観
—マンガ雑誌による若年女性の行動規範の形成—
- Why "Freedom of Speech" Should Be Defended Even When It Is Controversial
—Mapping "Hate Speech" in Public Discourse—
- Buddhism as a Solution: Addressing Social Pressures and Mental Health Challenges in Contemporary China
- Factors Affecting English-Speaking Attitudes by Foreign Language Speaking Anxiety
—An Investigation of Japanese University Students—
- Explaining EFL Teachers' Self-Efficacy for Communicative Language Teaching
—A Japanese Middle School Context—
- Japanese University Students' Perceptions of Virtual Exchange Programs
—A Focus on Readiness for L2 Communication—
- Exploring How Japanese Learners of EFL Demonstrate Metapragmatic Awareness in Advice-Giving Situations
—Sense of Divergence from and Convergence into Imaginary Nativeness—
- 蒙元時代の儀礼文化研究
—中国本土の壁画を中心に—
- 中国人留学生の留学動機とパターンの変化
- MEDIA REPRESENTATION OF UKRAINIAN REFUGEES IN JAPAN: ANALYZING ASAHI SHIMBUN (2022-2024)
- ALTs' Responsibilities in Elementary School English Classes: A Study of Alignment with Japan's Course of Study

博士論文題目例

- Ambiguities and Contradictions in Japanese University Internationalization
— A Multi-Case Study Focusing on Non-Elite Universities —
- 中国都市部の路上古物市場をめぐる〈空間〉と〈場所〉の人類学的研究
—天津における「鬼市」を事例として—
- 日系マイノリティの歴史からみるアメリカ多文化主義批判
— ツールレイク強制収容所のサルタン史から —
- カンボジアにおけるポストコロナルな性の構造の考察
- Formation and Stylistic Development of Turkman Painting

- 契丹輿服の考古学研究
—遼墓の壁画を中心として—
- 東アジアにおける四神思想の変遷
—日本の四神思想を中心に—
- トルファンソグド人墓の総合的研究
—考古学資料を中心にして—
- A Social Semiotic Multimodal Study of Commercial Boys Love (BL) Manga Covers in Japan

充実した研究設備

研究科生全員に机、ロッカーの設置された合同研究室をはじめ、カジュアルな研究発表・交流を目的とした研究ラウンジ、多くの蔵書や自学自習、交流スペースを備えたcommonsなど、充実した研究を実現する各種設備を用意しています。



専任教員紹介

Academic Staff Introduction

国際学研究科所属の教員を、
それぞれの研究テーマとともに紹介します。

氏名 name

専門分野・主な研究テーマ

国際文化学(修士・博士後期)

[教授]

泉 文明

IZUMI, Fumiaki

日本語学／日本語教育学
対照研究／語彙論
誤用例研究／文字表記論
コミュニケーション論
文化と表現／京ことば／
京都研究



[教授]

カルドネル
シルヴァン

Sylvain CARDONNEL

赤瀬川原平研究／
日本文学翻訳



[教授]

カルロス マリア・
レイナルス

M.Reinaruth CARLOS

人的資源と経済発展／
国際労働移動の
経済分析



[教授]

佐野 東生

SANO, Tosei

イスラーム地域研究／
イラン近現代史



[教授]

徐 光輝

XU, Guanghui

中国考古学／
東(北)アジア古代
文化交流史



[教授]

鈴木 滋

SUZUKI, Shigeru

人類学／
霊長類学／
人類進化論



[教授]

友永 雄吾

TOMONAGA, Yugo

社会・文化人類学／
オーストラリア
地域研究／
オーストラリア
先住民(族)研究



[教授]

朴 炫国

PARK, Hyun Kuk

韓国文学／民俗学／
日本人に対する
韓国語教育



[教授]

古川 秀夫

FURUKAWA, Hideo

ボランティア・
インターンシップ／
ゆとりと余暇／
労働意識／価値観 など



[教授]

松居 竜五

MATSUI, Ryugo

南方熊楠研究／
近代日本思想史



[教授]

八幡 耕一

YAWATA, Koichi

情報文化論／
メディア研究／
ジャーナリズム論



[准教授]

金 志善

KIM, jiesun

現代東アジアの文化と社会
植民地期朝鮮・日本に
おける音楽文化史／
メディアと文化権力、
文化政策、文化教育



[准教授]

古地 順一郎

KOJI, Junichiro

政治学／
公共政策学／
カナダ研究／
移民政策



[准教授]

ゴヴォルノフ
アリョーナ

Alena GOVOROUNOVA

比較宗教論／
キリスト教思想／
宗教哲学／
宗教と科学の対話



[准教授]

澤西 祐典

SAWANISHI, Yusuke

日本近代文学／
比較文学



[准教授]

杉本パウエンス
ジェシカ

SUGIMOTO
Bauwens Jessica

カルチュラル・スタディーズ／
映像文化論／
マンガ研究／
スタディーズ／
マンガ比較文化論



[准教授]

デブナル
ミロシュ

Milos DEBNAR

移民・国際移動／
エスニシティ／
人種／日本社会



[准教授]

林 則仁

HAYASHI, Norihito

イスラーム
美術史・建築史／
東西美術文化交流史



[准教授]
早島 慧
HAYASHIMA, Satoshi

インド仏教学/
大乘仏教思想



[講師]
青嶋 絢
AOSHIMA, Aya

芸術学/音楽学/
芸術運営学
(Arts Management)



[講師]
塚本瑞香
TSUKAMOTO, Mizuka

Teacher research,
Learner autonomy



[講師]
**ロスガーバー
ジョン**
John ROTHGERBER

英語教育 (TESOL) /
第二言語習得 /
音声学



グローバルスタディーズ (修士・博士後期)

[教授]
清水 耕介
SHIMIZU, Kosuke

国際政治経済理論 /
グローバル市民社会論 /
ジェンダー論 /
ポスト構造主義



[教授]
瀧口 順也
TAKIGUCHI, Junya

近現代ヨーロッパ史 /
ソ連・ロシア研究 /
国際共産主義運動史



[教授]
福山 泰子
FUKUYAMA, Yasuko

アジャインター壁画
の研究 /
東洋美術史
(インド美術史)



[准教授]
河合 沙織
KAWAI, Saori

ラテンアメリカ経済 /
ブラジル地域研究



[准教授]
中根 智子
NAKANE, Satoko

途上国の貧困問題 /
子どもの貧困 /
インドの都市開発と
スラムの形成 /
サービス・ラーニング



[講師]
崔 瑞瑩
CHOI, Seoyoung

国際関係論 /
脱植民地主義
フェミニスト理論 /
脱植民地主義
フェミニスト方法論



言語コミュニケーション (修士)・グローバルスタディーズ (博士後期)

[教授]
瀧本 真人
TAKIMOTO, Masato

通訳・翻訳研究 /
異文化間
コミュニケーション /
日本語教育 /
英語教育



[教授]
**チャブル
ジュリアン**
Julian CHAPPLE

国際関係 /
コミュニケーション /
市民権 / 教育学 など



[教授]
長嶺 寿宣
NAGAMINE, Toshinobu

言語教師の認知・情動 /
外国語教育政策 /
学校教育に係る諸問題



[教授]
**ピゴット
ジュリアン**
Julian PIGOTT

第二言語学習への
動機付け /
日本での第二言語教育 /
言語教育 / 教育 /
メディア論



[教授]
平塚 貴晶
HIRATSUKA, Takaaki

Language Teacher
Education /
Qualitative Research
Methods



[教授]
松村 省一
MATSUMURA, Shoichi

第二言語・外国語
習得研究 / 教員養成
外国語教育政策



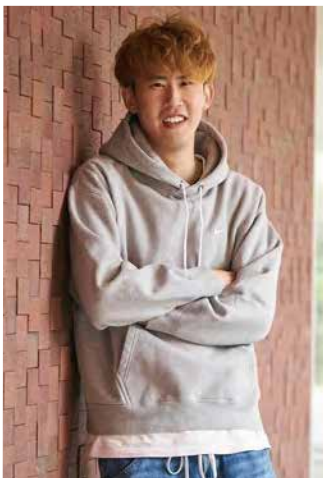
[准教授]
長尾 明子
NAGAO, Akiko

英語教育 /
communities
of Practices /
Systemic
Functional
Linguistics



多様な在学生 A diverse student population

在学生はグローバルな課題から身近な文化現象まで、多様なテーマを探究しており、互いの経験や視点を共有しながら学びを深める、活気あるコミュニティが形成されています。



迷ってる君へー違和感を大切に成長した日々

梅村 航平さん

修士課程 2年生 言語コミュニケーション専攻

大学4年生になった春、私は自分で決めたはずの進路に違和感を持っていました。そのことをゼミの先生に相談しました。それ以来、自分がより興味のある道を選ぶことで経験を豊かにでき、その後の進路にも繋がっていくような気がしました。そんな経緯で、国際学研究所へと進学しました。

現在は、服装とコミュニケーションについての研究を行っています。普段、なんとなく選んでいる服装をコミュニケーションの一つの手段として捉え、その服装選びの背景を探ろうとしています。言語コミュニケーション専攻の学生の多くは、それぞれの視点で英語教育について専門的に学んでいますし、他の専攻でも各々の興味に沿った研究をしています。そのような彼らとの会話を通じて、毎日、新たな考え方を学び吸収しながら、自分の研究に向かっていくことができます。その日々を通して、進学を決めた当時、研究したいことがぼんやりしていた私でしたが、今では自分の知りたいこと、やってみたいことは何なのかを細かく理解し、周りに伝えられるようになってきました。そのことが、研究だけでなく、暮らしていくなかの様々な場面で活かしているという実感があります。そのため、まだ自分の気持ちがあっさりしていても、少しでも進路に悩みがあったり、進学に興味があったりすれば、自分を理解していく第一歩だと思い、是非、国際学研究所の先生方や職員の方に相談してみてください。

—答えを見つけない—その思いが研究の原点に

安藤 光輝さん

修士課程 1年生 国際文化学専攻

私が大学院に進学した理由は、学部時代のスロバキア留学で生じた疑問に対する答えを見つけないと考えるからです。留学中、様々な国籍の人々と交流する中で、相手に冷たく接される時もあれば、日本人と分かると相手の対応が優しくなったり、日本について興味を持ち話しかけられたりすることが多く、周囲の反応が場面によって大きく異なることに驚きました。この経験から、欧州において日本人の社会的立場がどのように位置付けられているのかについて詳しく知りたいと思い進学を決めました。

国際文化学専攻を選んだのは、私の研究テーマに合った教員から指導を受けられることに加え、「アジアアフリカ総合研究プログラム」のフィールド調査補助制度を利用することで海外調査を実施できるということに魅力を感じたためです。

入学後は、様々な先生方からそれぞれの知見や経験に基づいた多角的なアドバイスをいただいています。これは、教員や生徒の研究分野が多岐にわたる本研究科の特徴だと感じています。さらに、研究活動ではフィールド調査補助制度を利用してスロバキア共和国で調査を実施する事ができました。このように、国際学研究所では、研究分野の異なる先生方や一緒に授業を受ける仲間達から刺激を受けたり、多様な研究支援制度やサポートを利用したりすることができることから、充実した環境で研究に取り組むことができます。



世界で活躍する修了生 Graduates who are active worldwide

国際学研究所の修了生は、研究者の道に進む方から、国際社会の第一線で活躍するプロフェッショナルまで、世界を舞台にその可能性を広げています。



北陸の生地を世界へー多文化理解の学びを生かして

中島 帆乃香さん

修士課程 グローバルスタディーズ専攻 2023年3月修了
豊通ファッションエクスプレス株式会社

私は、コロナ禍で海外関係の求人が減り、納得できる就職先が見つからなかったため、大学院で学ぶことを選びました。

現在は、アウトドアアパレル、ライフウェア(パジャマ等)、ユニフォーム等を主に取り扱っており、商社機能に加えてものづくりを行うメーカー機能も有していることが特徴の繊維専門商社で、営業として勤務しています。製品企画、原料調達、紡績、染色、縫製、生産、販売に至るまで、国内外のサプライチェーンのパートナーと密に連携し、北陸で生産した生地の輸出を担当しています。一年に最低3回の海外出張があり、商談や打ち合わせを現地ですべて行っています。

最もやりがいを感じるのは、一から携わった生地が製品となり店頭に並び出す瞬間です。今年は2つのブランドで生地提案から携わった製品が販売されました。

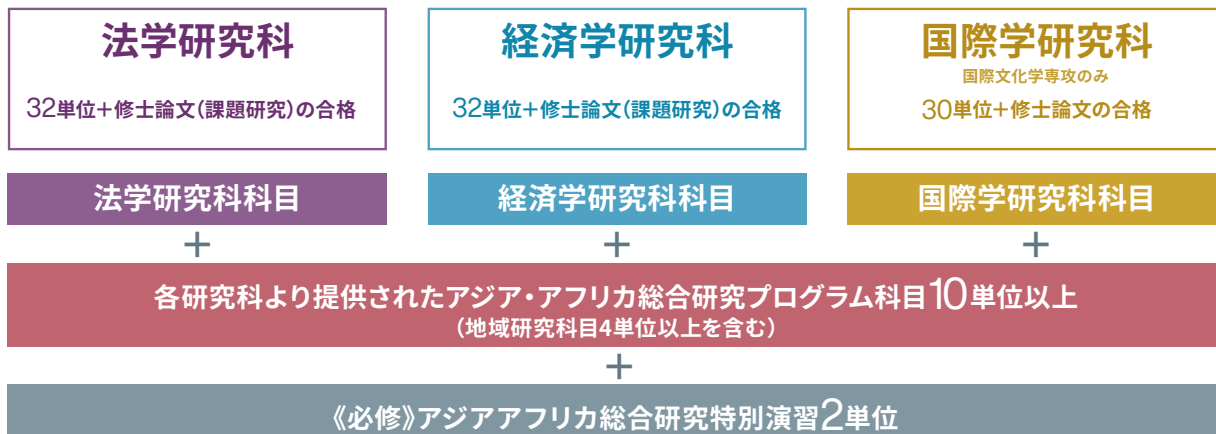
海外営業と聞くと「華やかな世界」を想像されがちですが、実際は地道で泥臭い業務がほとんどです。トラブル発生時には素早く状況を整理・報告し、お客さんの理解を得て信頼関係を築くことを心掛けています。

国際学研究所で身に着けた、国内外の情勢にアンテナを張る姿勢は、今の仕事に生きています。また、「物事を客観的に見る」という考え方も大事にしています。言葉を選ぶときは相手はどう受け取るか、どう伝えれば安心してもらえるかを意識しています。商社では人とのつながりが何より重要なので、特に国籍や世代の違う方と働く場面でこの意識が生きてくると思っています。

アジア・アフリカ総合研究プログラム

3研究科にわたるカリキュラム

▼ 修了要件



アジア・アフリカ総合研究プログラム科目

科目区分	授業科目	開講研究科	
特別演習	アジアアフリカ総合研究特別演習		
	アジア経済史	経済学	
地域研究科目	アジア政治論研究	法学	
	日本経済論	経済学	
	中国経済論	経済学	
	日本研究A	国際学	
	共生社会研究A	国際学	
	言語文化研究A	国際学	
	言語文化研究B	国際学	
	宗教文化研究B	国際学	
	芸術・メディア研究A	国際学	
	芸術・メディア研究B	国際学	
	特殊研究(Asian Politics)	法学	
	アジアII	アジア経済論	経済学
		中東政治論研究	法学

科目区分	授業科目	開講研究科
地域研究科目	アフリカ政治論研究	法学
	アフリカ経済論	経済学
	アフリカ社会論研究	法学
	特殊研究(African Politics)	法学
	国際政治経済学	経済学
総合研究科目	比較政治論研究	法学
	国家・民族論研究	法学
	平和・紛争論研究	法学
	外交政策論研究	法学
	開発援助論研究	法学
	国際法研究 I	法学
	国際人権法研究 II	法学
	国際環境法研究 I	法学
	特殊研究(Comparative Politics)	法学
	特殊研究(International Human Rights Law II)	法学

科目区分	授業科目	開講研究科
総合研究科目	民衆学	経済学
	経済協力論	経済学
	環境経済学	経済学
	農業経済論	経済学
	フィールド調査の技法	経済学
文化社会分野	開発経済学	経済学
	特殊研究(法政応用英語 I)	法学
	特殊研究(法政応用英語 II)	法学
	特殊研究(法政応用英語 III)	法学
	特殊研究(法政応用英語 IV)	法学
	日本研究B	国際学
	共生社会研究B	国際学
	宗教文化研究A	国際学

※2026年度の科目名です。
 ※年度によって不開講となる科目があります。

アジア・アフリカ総合研究プログラム4つの特徴

1 3研究科の共同運営

このプログラムは、法学研究科、経済学研究科、国際学研究科の3つの研究科が共同で運営する大学院修士課程の共通プログラムです。履修を希望する場合はいずれかの研究科に所属する必要があります。それぞれの研究科から、アジア・アフリカ地域研究で豊富な実績を持つ教員が科目を担当し、研究科の枠を越えてプログラム生を指導しています。

2 充実したフィールド調査補助費制度

アジア・アフリカ地域に対して旺盛な研究意欲を持ち、論文作成においてフィールド調査を行うことが認められたプログラム生に対して、フィールド調査補助費制度を設けています。これまで多くの学生がフィールド調査補助費制度を利用し、修士論文の作成に役立っています。

3 修士号とプログラム修了証の授与

本プログラムを修了した学生は、所属する研究科の修士(法学)、修士(経済学)、修士(国際文化学)と、プログラム修了証(Certificate of Completion of Graduate Program in Asian and African Studies)を同時に修得できます。なお、修士論文の指導は所属研究科の教員が行います。

4 様々な入試制度を用意

本学では、学内推薦入試、一般入試、社会人入試等、様々な入試制度を用意していますので、自身に合った入試を選択することができます。また、法学研究科では、独自に「アジア・アフリカ総合研究プログラム入試」を整備しています。プログラム進学後の研究計画書をもとにした、筆答試験1科目と口述試験により可否を判断します。

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学大学院 国際学研究所

新たな知と価値を創造するために、
「心・知・行動」の拠点として、地域や世界の課題に対峙し、
問い続ける。それが、龍谷大学の研究のあり方です。

これまでの社会のありようや私たちの行動を省み、
先端的な研究や学際的連携による知の集約のもと、
世界の人々と協力して困難な課題に立ち向かう。
その姿勢と行動が、未来の可能性を切り拓いていきます。

京都深草キャンパス※ 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-5645 world@ad.ryukoku.ac.jp

※2027年4月、「深草キャンパス」より名称変更。



国際学研究所の HP はコチラから

<https://www.world.ryukoku.ac.jp/graduate/>

■ 入試について

「2027年度 入学試験要項」をご確認ください。
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。
<https://www.ryukoku.ac.jp/admission/nyushi/>

■ 学費・諸会費について

2027年度学費・諸会費については、「2027年度入学試験要項」をご参照ください。

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行